

<公民科>

指導事例一覧

番号	科目名	言語活動の特色	単元名	分類	活動
1	現代社会	資料の解釈や説明に基づいて自分の考えを論述する事例	日本の政治機構と政治参加	(1)ア(ii)	②③
2	現代社会	議論を通して現実社会が抱える課題について説明, 論述する事例	政府の経済的役割	(1)イ(i)	③④
3	倫理	生徒間の対話を通して, 主体的に人生観・価値観について考察を深めさせる事例	自己実現と幸福～私にとっての幸福とは?～	(1)イ(ii) (2)ア	③⑥
4	政治・経済	概念を解釈, 説明し, さらに自分の考えを論述する事例	法の下での平等を考える	(1)イ(ii)	③⑥

公民

<分類, 活動の見方>

分類・・・言語の役割を踏まえ言語活動を分類したもの（詳細は第2章7～9ページ参照）

- (1) 知的活動（論理や思考）に関すること
 - ア 事実等を正確に理解し, 他者に的確に分かりやすく伝えること
 - (i) 事実を正確に理解すること
 - (ii) 他者に的確に分かりやすく伝えること
 - イ 事実等を解釈し説明するとともに, 自分の考えをもつこと, さらに互いの考えを伝え合うことで, 自分の考えや集団の考えを発展させること
 - (i) 事実等を解釈し, 説明することにより自分の考えを深めること
 - (ii) 考えを伝え合うことで, 自分の考えや集団の考えを発展させること
- (2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること
 - ア 互いの存在についての理解を深め, 尊重すること
 - イ 感じたことを言葉にしたり, それらの言葉を互いに伝え合ったりすること

活動・・・思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動（詳細は第1章5～6ページ参照）

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し, 説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し, 論述する
- ⑤ 課題について, 構想を立て実践し, 評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い, 自らの考えや集団の考えを発展させる

【学習活動の概要】

1 単元名 日本政治機構と政治参加			
2 単元の目標 議会制民主主義に対する関心を高め、現代日本の政治機構の仕組みについて理解させるとともに、様々な情報を効果的に活用させて政治参加に関する自らの意見をまとめさせる。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
議会制民主主義に対する関心を高め、意見文の作成やグループ協議などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	現代日本の政治機構が抱えている課題の解決に向け多面的・多角的に考察し、自らの考え方を構築するとともにそれを文章化している。	現代日本の政治機構が抱えている課題を解決するために必要な情報を新聞から読み取り、それを効果的に活用している。	現代日本の政治機構の仕組みについて理解し、その知識を身に付けている。
4 単元の概要と言語活動 この単元では、「国会の役割とは何か?」、「内閣と国会の関係はどのようになっているのか?」、「人が人を裁くというのどういうことなのか?」、「地方公共団体とはどのようなものなのか?」などの疑問を教室で共有する。これら一つ一つの疑問に答えるために、新聞を活用して解釈、説明、論述させることで生徒一人一人の思考力・判断力・表現力を育む。			
5 単元の指導計画(全6時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (1)	議会制民主主義 ・議会制民主主義と大統領制の違いは何か。	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治について、様々な課題があることに気付き、疑問形で学習目標を共有させる。 ・考察の基盤となる知識や概念を身に付けさせ、関連する新聞記事を解釈させる。 ・問題の核心を捉え、自分の考えを説明できるようにさせる。 ・課題に対してどのように考えるのか論述させる。その際、まず結論を書かせ、次にその理由を「なぜなら」、「それに」、「また」と導きながら記述させる。 ・理由を記述させる際に、その根拠は資料の中から見付けさせる。 	
第2次 (3)	国会・内閣・裁判所の仕組みと働き ・国会の役割とは何か。 ・内閣と国会の関係はどのようになっているのか。 ・裁判を通じて国民の権利や自由を保障するとはどういうことなのか。		
第3次 (2)	地方自治 ・地方自治にはどのような機能があるのか。 政治参加と選挙 ・政治家は、どのような仕組みの下で選ばれているのか。		

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本単元は、「現代社会」2内容の(2)現代社会と人間としての在り方生き方「イ 現代の民主政治と政治参加の意義」に基づき設定した。学習指導要領解説にあるように、「民主社会に主体的に生きる人間としての在り方生き方について考察させる」ことを目的としている。この目的を達成するために、国会・内閣・裁判所・地方自治それぞれの学習テーマを疑問形で設定することが考えられる。そこで、生徒にこの疑問を教科書、新聞、白書といった様々な資料を基に解釈させ、説明・論述させることで言語活動の充実につなげた。

【言語活動の充実の工夫】

単元の目標を達成するために、日本の政治機構の在り方をめぐる様々な意見の対立があることを理解する必要がある。そこで、授業で習得した内容を活用するために新聞記事を用いることが有効である。

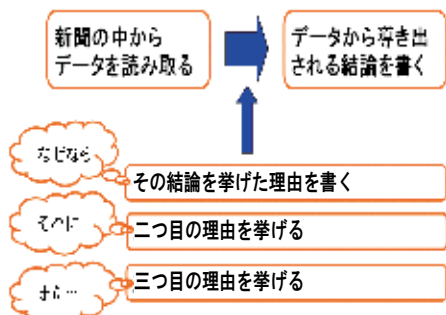
この単元で言語活動を行う際のポイントをまとめると、次のようになる。



- ① 教師が、本時の学習テーマを疑問形で設定する。
(例：「人が人を裁くというのはどういうことなのか？」)
- ② この疑問を解決する材料として新聞記事を用いさせる。
- ③ 新聞記事の内容を解釈するためにアニメーションを行わせる。
(注) アニメーション…スペインのモンセラット＝サルトが開発した、読む力を引き出すための手法。(例：同じ事件について異なった観点から執筆されている新聞記事を比較させる)
- ④ 新聞記事の内容を説明できるようにさせる。
(例：新聞記事の要約を発表する)
- ⑤ 教師が、新聞記事の内容から論題を設定する。
(例：「事件発生時、テレビカメラマンは黙って眺めるしかなかった」と書いてあるが、なぜそのような行動をとらざるを得なかったのか?)
- ⑥ ワークシートを用いて、論題に対する自分の意見を論述させる。
(1) 結論を先に書き、理由を三つ挙げさせる。
(2) 理由の根拠を、資料の中から見付け出させる。
- ⑦ 新聞記事の内容を基に自らの主張を構造化する方法を習得させるとともに、自らの論述内容の変化を見取ることができるようにするために、論述したワークシートをファイリングしていく。
- ⑧ 単元あるいは次程ごとに①～⑦のサイクルを繰り返すことで、資料の解釈、説明、論述を通した言語活動を充実させていく。



【ワークシートの例】



【学習活動の概要】

1 単元名 政府の経済的役割			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・政府の経済的役割を, 的確に捉えようとする。(関心・意欲・態度) ・財政の仕組みを可視化することで課題を見だし, 見いだした課題について思考し判断したことを自他に対して適切に表現できる。(思考・判断・表現) ・財政について説明した文章を基に, その仕組みを図式化できる。(資料活用の技能) ・財政(租税や国債)の仕組みを法的根拠に基づいて理解する。(知識・理解) 			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
政府の経済的役割について, 的確に捉えようとしている。	財政の仕組みを可視化した内容について, 思考し判断した結果を適切に表現している。	政府の経済的役割について説明した文章を図式化している。	財政の仕組みを法的根拠に基づいて理解し, その知識を身に付けている。
4 取り上げる言語活動と教材			
(1) 言語活動 財政の仕組みから課題を見だし, 他者との検討を通して多角的に検証すること。			
(2) 教材 政府の経済的役割(国債の課題と解決に向けた取組について考察させる)			
5 単元の指導計画(全4時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ○政府の経済的役割を理解するとともに, その課題について考察する。(財政の仕組みと機能, 国債など) ・国債(財政法)の内容について図式化(可視化)する。(個人) ・可視化した内容の解説文を作成し制度の課題を考察する。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容から考察の対象となる課題を見だし, 自分の意見を形成した上で, 意見交換を行うことを伝える。 ・可視化することで学習内容の把握と理解を深め, 考察すべき課題を見いださせる。 ・解説文の作成を通して, 課題とその解決策について, 自分の意見をまとめさせる。 	
第2次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで個人の考えを発表するとともに, グループとしての課題と解決策をまとめる。(グループ) ・各グループの課題とその解決方法を発表する。(全体) ・制度の在り方を再考する。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の意見を対比させながら, グループが判断する最重要課題を選択させ, その解決策を考察させる。 ・グループごとの視点や結論が同じでも考え方が異なる点などに気付かせる。 ・課題を解決する自己の考えを論述させる。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例の学習指導要領における該当箇所は、次のとおりである。

- エ 現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。
(後略) (「現代社会」2内容(2))
- イ 内容の(2)については、次の事項に留意すること。
- (ア) 項目ごとに課題を設定し、内容の(1)で取り上げた幸福、正義、公正などを用いて考察させること。
(「現代社会」3内容の取扱い(2)のイ)

この指導事項に関する言語活動は次のとおりである。

- エ (前略) 学習の過程で考察したことや学習の成果を適切に表現させるよう留意すること。
(「現代社会」3内容の取扱い(1))

【言語活動の充実の工夫】

現代社会の学習において言語活動を行うためには、生徒自身が学習内容について課題を発見し、その解決に向けた取組について、自己の意見を形成していることが前提となる。

課題を発見するためには、どのような考え方が人々の「幸福」を実現するための取組となるのかという視点に立って、学習内容を理解し考察する必要がある。課題に対する自分の考えを明確な理由とともに形成することができれば、「現代社会」の授業において、政策的な内容を伴った言語活動を展開することが可能である。

言語活動の充実を図る過程として①～⑧までを提示した。個人の意見形成が十分行われている状況が存在すると、生徒は意見の発表、自他の意見との比較を通じた最重要課題の選定、課題の解決に向けた意見の表明へと言語活動を展開することができる。併記した評価の観点に授業の展開の状況を組み合わせることで、「関心・意欲・態度」を評価することが可能である。

言語活動の充実の工夫として、本事例では生徒が考えた課題解決の方法に対し、その内容が「公正」であるのかという視点から全ての人にとって望ましい解決策を考察させる、すなわち「正義」について考察させることができる。

この場合、「幸福」の実現を図るための取組という点で見解が一致していても、考え方の違い

が課題の解決に向けた取組を異にさせていることに気付かせ、その上で意見を交換する言語活動に取り組ませることができる。

学習活動の中で言語活動の充実を図る過程

◎「言語活動の充実」を図る事前活動

- ①文章等を図式化する作業
・学習内容の可視化(資料活用の技能)
- ②可視化した学習内容の確認
・内容理解の確認(知識・理解)
- ③可視化した学習内容の解説文作成
・学習内容の表現(思考・判断・表現)
- ④課題の発見と解決に向けた意見形成
・課題について考察(思考・判断・表現)

◎「言語活動の充実」に係る活動

- ⑤グループを形成し各自の課題を発表
・課題についての討議(思考・判断・表現)
- ⑥各自の課題に対する意見交換
・課題の比較・検討(思考・判断・表現)
- ⑦最重要課題の選定と対策案の協議
・課題の多角的検証(思考・判断・表現)

◎「言語活動の充実」を発展させる取組

- ⑧様々な形態の学習活動への進展
・ディスカッションやディベートなどの授業形態を展開することができる。

【学習活動の概要】

1 単元名 自己実現と幸福 ～私にとっての幸福とは？～			
2 単元の目標 先哲の思想を手掛かりとして幸福について思索した内容を、紙上対話・クラス討議など、周囲との交流により多角的に考察し、他者と共に生きる自己の在り方生き方について自覚を深めさせる。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
様々な思想家の幸福論に関心をもち、「幸福とは何か」という問いを深め、現代に生きる自己の在り方生き方の課題を追究しようとしている。	様々な思想家の幸福論を多面的・多角的に考察し、幸福について自らの立場を明らかにして考察の過程を表現し、現代に生きる人間としての在り方生き方について周囲と自己の考えの違いを根拠付けて判断している。	様々な思想家の幸福論について、多様な情報手段を通して、妥当な資料を収集し、それを適切にまとめている。	様々な思想家の幸福論を自己の考え方と比較しながら理解し、自身と他者の幸福の捉え方の違いについて根拠を示して説明している。
4 取り上げる言語活動と教材			
(1) 言語活動 課題レポートの幸福論に対する「紙上」での意見交換（紙上対話） ワークシートに記述したことを基にしたグループやクラスでの対話、発表			
(2) 教材 先哲の「幸福論」、それらを基に作成した生徒のレポート			
5 単元の指導計画(全3時間)			
	学 習 活 動		言語活動に関する指導上の留意
第1次 (1)	・レポートの紹介とレポートへのコメント記入（資料Ⅰ参照） ・幸福に関する先哲の思想の確認Ⅰ		・紹介するレポートを精選する。 ・座標軸の利用はあくまで思考を視覚化し思考を促すことが目的であるため厳密さは求めない。
第2次 (1)	・自分の幸福の捉え方を分析するために、「線分」（両サイドに物質的・精神的などの対立概念を置き、その間に目盛りをうち、自分の考えに近い点に印を付ける）を利用する。（資料Ⅱ参照） ・幸福に関する先哲の思想の確認Ⅱ（線分を組み合わせた座標において、先哲の思想が座標のどこに配置されるかを考察する。） ・幸福についての自分の考え方が座標のどこに配置されるか考える。		
第3次 (1)	・幸福についての自分の考え方をまとめる。 ・3人1組でグループ対話を行う。 ・2人が各自の考え方を発表し1人が評価を行う。 ・グループ内対話の概要をグループごとに発表する。 ・幸福についての自分の考え方を改めて座標上に示す。 ・座標軸上の配置の維持・変更については、理由を内省した上で発言し、考察を全体で深める。		・適宜グループ対話の間に入って対話を整理する。 ・全体での発表では論点や主張の共通点と相違点に留意させる。

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

指導事例の内容に関する学習指導要領上の関連部分は以下のとおりである。

ア (前略) 自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。(「倫理」2内容(3))

今回の指導事例は、学習指導要領の以下の部分における「様々な工夫」の一つとして、言語活動を重視した試みである。

イ (前略) 生徒自らが人生観、世界観を確立するための手掛かりを得させるよう様々な工夫を行うこと。(「倫理」3内容の取扱い(1))

【言語活動の充実の工夫】

① 生徒にとって関心があると思われた「幸福」をテーマに夏課題として調べ学習を実施した。その中から優れたレポートを選んで、次の「紙上対話」や「グループでの対話」を行った。

② 「紙上対話」とは、提示されたレポートの幸福論に対して、クラスメートが質問や意見、気付きを記述し、レポート作成者がそれらに対して、さらにコメントするものである。(右資料I参照)

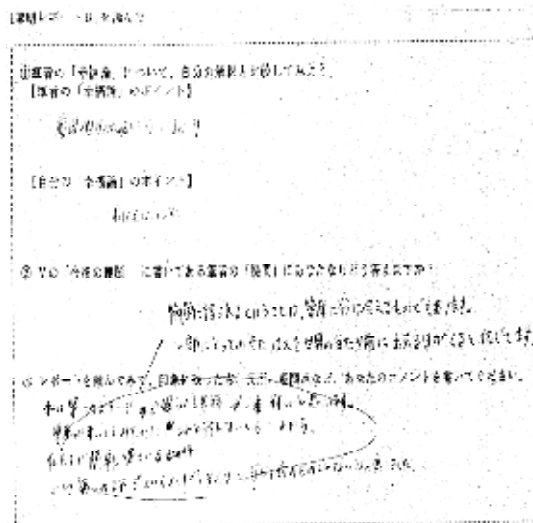
(※一連の紙上対話は、記述者の名前を伏せて行っている。)

この活動では、直接会話することに比べ、落ち着いて思考を深めている様子がうかがえた。

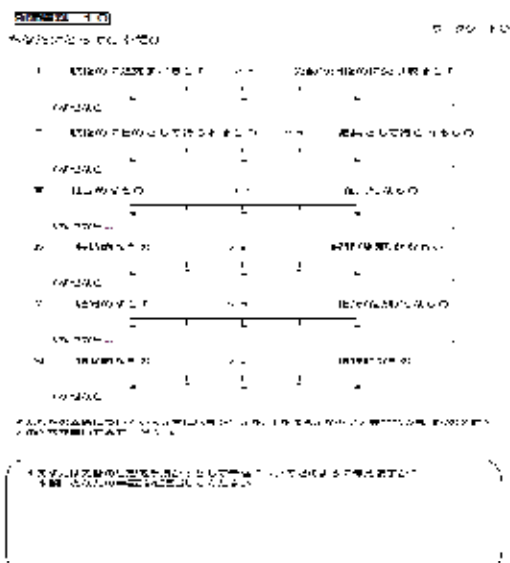
③ 「幸福」を分析的に考えさせることを意図して、

「線分」(下資料II参照)や「座標軸」(下資料III参照)を利用し、それらを基に幸福についてミニ・ディベートを行い、その結果を発表させた。座標軸の利用は、それぞれの幸福についての考えが視覚的・相対的に示され、それによってその後の対話が促進された。また、ミニ・ディベート前後での生徒の思考の変遷を確認する上でも有効であった。

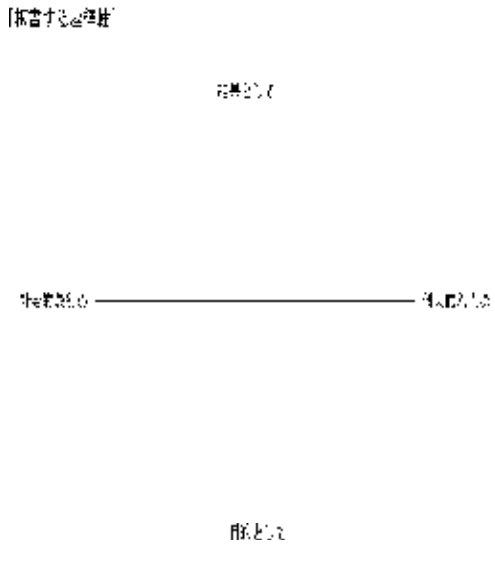
【資料I】



【資料II】



【資料III】



公民一4(政治・経済) 概念を解釈, 説明し, さらに自分の考えを論述する事例

【学習活動の概要】

1 単元名 法の下での平等を考える			
2 単元の目標 法の下での平等について関心を高め, 平等権についての論点を抽出, 図式化させ, 平等権の在り方, 課題に対する自分の考えを的確に表現させる。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
法の下での平等に対する関心を高め, 論点について意欲的に追究し, 適切な合意案を考えようとしている。	抽出した論点について合意形成に向けて考察し, 自分の考えの根拠付け, 対立する考えに対する反駁 ^{はく} などを的確に行っている。	平等権が抱える課題について, 収集した資料から論点を抽出し, 図式化している。	平等権が抱える課題について, 事実とその背景にある理論を基に何が論点なのかを理解し, その知識を身に付けている。
4 取り上げる言語活動と教材 (1) 言語活動 積極的優遇措置に関する判例について, 論点を発見しディベートを行う。 (2) 教材 アファーマティブ・アクション (少数派に対する積極的優遇措置) の問題			
5 単元の指導計画(全5時間)			
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	
第1次 (3)	1 平等権の理論を学習する ① 平等原則「等しいものは等しく, 等しくないものは等しくなく扱う」 ・形式的平等と実質的平等の違い(事例: 合理的区別は許されるか) ② 日本国憲法第14条の条文解釈を行う。 ③ 様々な差別を解消するために法律が制定されていることに気付く。(事例: 女性差別→男女雇用機会均等法の制定)	1 理論学習をケーススタディに先行させ, 言語活動に必要な知識の習得を図る。 ・平等の考え方は一様ではないことに気付かせる。	
第2次 (2)	2 ケーススタディ アファーマティブ・アクションについて論点を抽出し, 考察する。(事例: アメリカの大学でマイノリティの受験者の合格点を低く設定した) ① 平等権を保障している←→平等権に反する ② 「図式」を使い, 論理的に考察する。 ③ ディベートを行い, 論理の優位性を競う。 ④ 法の下での平等について, 考えを論述する。	2 自分の考えと対立する考えがあることに気付かせ, それぞれの主張の根拠を考察させる。 ・「図式」は, 問題提起→主張→理由→留保条件, の順で記入させ, 思考の過程を可視化させる。 ・考えを伝え合うことで, 自分や集団の考えを発展させる。	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例の内容に関する学習指導要領上の関連部分は、次のとおりである。

ア 日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会、内閣、裁判所などの政治機構を概観させるとともに、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治などについて理解させ、民主政治の本質や現代政治の特質について把握させ、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察させる。（「政治・経済」2内容(1)）

この指導事項を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は、次のとおりである。

ウ 政治や経済について考察した過程や結果について適切に表現する能力と態度を育てるようにすること。（「政治・経済」3内容の取扱い(1)）

【言語活動の充実の工夫】

社会科学においては、言説の背景となる知識が必要である。社会の構造を理解してこそ、意味のある言語が発せられるからである。ただし、知識は生徒の理解を一度くぐったものでなければならず、借り物の知識では言語化することはできない。特に法に関する学習において、議論のかみ合った言語活動となるためには、自分の考えの根拠と、対立する考えの根拠の双方を生徒に明確に意識させる必要がある。

本指導事例における言語活動は、以下の流れで行われる。

- ① 事実について話し合う。
- ② 自分の考えを右の「図式」に反映し、記述する。
- ③ 他者に、自分が構築した論理を口頭で説明する。
- ④ 対立する他者の考えを、図式を用いて論理的に批判する。
- ⑤ 自分の考えを再構築する。

※言語活動を行う際の、上記①～⑤に対応する「手順」、「ポイント」等を示す。

- ① 生徒の身近な事実から出発させる。（例：平等か否か）
- ② 生徒に論点を明確に意識させる。（例：合理的区別か否か）
- ③ 生徒の価値観と異なる概念を提示し、論点に沿ってその概念を用いて表現させる。（例：アファーマティブ・アクション）
- ④ 提示された概念を用いるだけではうまく表現できず、新たな概念構築の必要があることに気付かせる。（例：アファーマティブ・アクションにより逆差別が生じる）
- ⑤ 新たな論点を明確に意識させる。（例：「公正」とは何か）
→新たな論点を用いて、当該単元で考察したことを論述させる。（例：どのような状態になることが「公正」であり、法の下での平等を実現することになるのか）

